

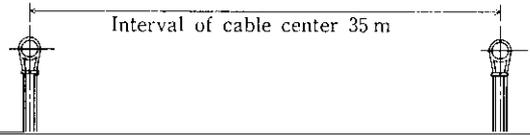


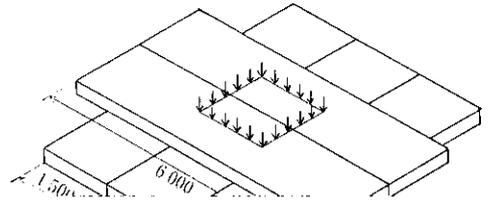
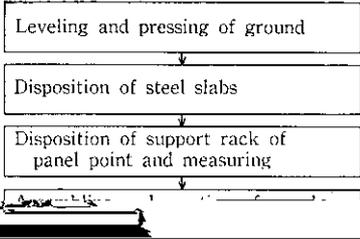


Construction of Stiffening Trusses of Honshu-Shikoku Bridges

要旨

本州四国連絡橋（児島・坂出ルート）の下津井瀬戸大橋補剛桁の  
約 79 m のトラス部を補剛桁の一部として 168 m の橋上組立





150 t トレーラ	1 台
25~100 t トレーラ	3 台
11 t トラック	2 台

合の例を Fig. 8 に示す。各部材のガセットプレートは全て工場段階で孔ぐりされて (300~600 本/箇所) 入荷したため、組立時に、孔の取合精度と寸法精度の両方を同時に実現することが要求された。結果的には、ドリフトピン、オイルジャッキなどの治工具で孔

とくに今回の工事用として設計・製作した資材や治工具類は合計

た。

159 t であり、その内、千両以上のものを示す

Fig. 9 が小組トラスの 300 t クリーンボックス面は両側を示す

格点用受架台	64 組	62.4 t
塗装用受架台	24 組	63 t

ジャッキおよびチルホールにより垂直材上部を開き加減にして、トラスを落し込み孔合せを行った。





(6) 与角タテ(引締 引座 引座)の最端部を粗シヤ塗りして

部)をはさみ込んで、4方位にそれぞれ2パネルずつ立て保管する方法を取った。全体としての剛性が高まり、保管架台の重量は65tと、従来方法の約半分に軽量化を図ることが出来た。

## 5.2 構内輸送および出荷

下津井桁は組立および塗装完了後2つの大ブロックに分割され、現地架設用の吊天秤を取付けた。1600t吊り海上クレーンにより吊り上げられ、1ブロックはそのまま現地まで運ばれて架設された。他の1ブロックは3000tバージに積込まれて出荷された。**Photo 5**に1600t吊り海上クレーンによる吊上げ状況を示す。

北備桁の出荷は1986年10月から12月にかけて行われる。4パネル単位で6船分の出荷となる。長さ27m、幅15mのパネル(90